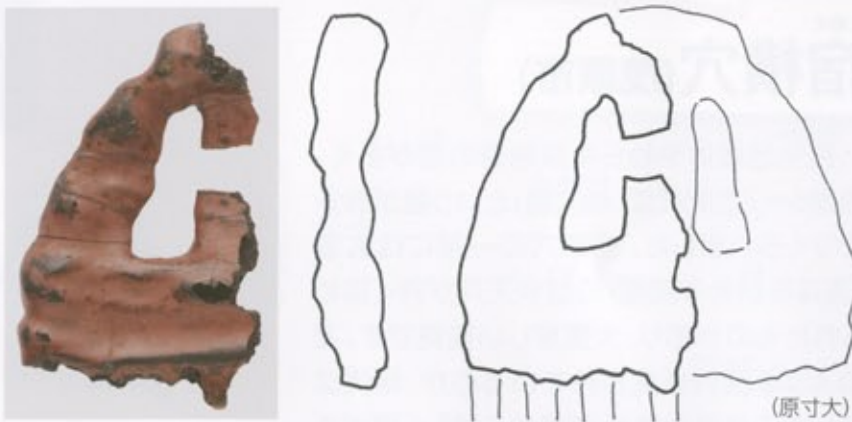


縄文時代の「くし」です。

木更津市の土器埴遺跡から縄文時代晩期のころと考えられる「くし」が発見されました。

全国的には珍しくはありませんが、千葉県では2例目です。木製で朱ぬりされた縦長の形です。



出土遺物巡回展

房総発掘 ものがたり

— 地下50cm・文字の世界 —

いよいよ最後の展示となりました。

1月9日(土)～2月21日(日)まで
千葉県立中央博物館で開催します。



千葉県遺跡調査研究発表会のお知らせ

巡回展の最終日、2月21日(日)に県立中央博物館で開催します。

国立歴史民俗博物館館長 平川南先生の記念講演はじめ、県内各地域の文字資料、墨書土器に関する発表があります。入場無料(館内の見学は有料(小中学生、65才以上は無料))。奮ってご参加ください。



日時	平成22年2月21日(日)
場所	千葉県立中央博物館 講堂
日程	受付 12:20～12:40 記念講演 12:50～14:10 国立歴史民俗博物館 館長 平川 南 先生 古代日本の文字の始まりと広がり、 墨書土器に関するご講演を予定しています。
各地域の様相	14:20～15:40 下総、印旛、香取、山武各地域の発表(20分づつ)
質疑応答	15:50～16:20
解散	16:30

先着
200名様

おおまつ いせき じょうもんしゅうらく 柏市大松遺跡の縄文集落



(左) たて穴住居跡から出土した
縄文時代中期(約4,500年前)の土器
(下) 発掘風景



CONTENTS
柏市大松遺跡の縄文集落
大松遺跡の土器
発掘調査情報
宿横穴／小西城／今郡カチ内遺跡
埋文・アラカルト
縄文時代の「くし」です。
出土遺物巡回展
千葉県遺跡調査研究発表会のお知らせ

柏市大松遺跡の土器

柏市の北部、田中地区では現在、UR（都市再生機構）の区画整理事業に伴い、大規模な発掘調査が行われています。その中の大松遺跡では、縄文時代中期（約4,500年前）のたて穴住居跡などがたくさん発見され、当時、かなり大規模な集落であったことがわかりました。

また、大量の出土した縄文土器には北陸地域や西関東地域からの影響を強くうかがわせるものもあり、土器の造形やもようの美しさには目をみはるものがあります。当地の人々が、遠い北陸地域とどのような関わりがあったのか、何を思いながらこのように神秘的な作品をつくりあげたのか……興味がつきません。

なお、大松遺跡は平成22年度の出土遺物巡回展（22年7月以降に計画中）に展示予定です。

へびの顔にも見えるもようがあります。

西関東・甲信地域の影響も認められます。



発掘調査情報

しゆく 宿横穴(茂原市)

ちようせい 長生地域はやわらかな地層の崖が多く、西暦6〜7世紀代に「横穴墓」という墓が数多くつくられました。宿横穴の一部には玄室（遺体を納める部屋）の壁と天井が赤く染められたものがあり、大変珍しい発見です。どのような顔料が使われているのか、年代はいつごろなのかなど、これから詳しく調べていきます。



玄室内

こ にし じょう 小西城(大網白里町)

平成21年10月3日（土）、現地説明会を開催しました。朝方は晴れ間も見えましたが途中から雷雨となり、参加された皆様には、大変ご迷惑をおかけしました。それでも100人以上の方々がお見えになり、戦国の乱世に思いを馳せていただきました。



いま ごおり うち 今郡力チ内遺跡(東庄町)

東庄町立橋小学校6年生が見学にきました。奈良時代（8世紀）のたて穴住居跡の説明を受けています。この遺跡からは古墳時代後期（6世紀）の二重の周溝をもつ古墳も発見されました。



※各遺跡とも現在、安全管理上、原則として立ち入ることはできませんのでご了承ください。